



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

商店街の灯が 消えつつある

日本全国を旅して気がかりなことはいっぱいありますが、とりわけ気がかりで目を覆いたくなるのは、地方の商店街の元気のなさです。かつて人で溢れかえっていたであろう商店街の姿も今は大きく変貌し、シャッター街という代名詞までついて、シャッターを開けて店を営んでいる人に話を聞いても、「商店街で商売しても赤字続きで、いつ店を閉めるか分からん」とか、「跡継ぎもおらんし、この店も私の代で終りだ」と冷めた言葉しか返らず、余程のことがない限り商店街の再生は不可能ではないかと同情させます。

何故商店街がこのように急速に衰えたのか、商店街関係者にさらに話を聞くと、「原因は幾つもあるが、とりわけ①車の普及と道

路網の整備、②大型店やスーパーなどの相次ぐ出店、③ライフスタイルと消費動向の変化などに商店街がついて行けなかったから」と、むしろ自分たちの経営努力が足りなかったことよりも、商店街を取り巻く外的なことが大きな原因だと言わんばかりの話でした。

商店街の人が言うように、車の普及と道路網の整備は予想以上に人々の暮らしに大きな変化をもたらしたことは誰もが認めるところです。狭隘で地価の高い商店街では駐車場を確保することすらままならず、広い駐車場を完備した店が郊外に出来始めると、不便さや対応の悪さ、高値、品揃え不足を理由に商店街から客足が遠のいて行ったのは当然の成り行きだったのかも知れません。

かつて大型店やスーパーの出店話に危機感を持った商店主たちは、死活問題だと反対運動などを展開してみたものの、法律の改正などもあって、なし崩し的に出店され、品揃えの豊富さと薄利多売の魅力に客を奪われ現在に至っているようです。



大分県豊高田市 中央通り商店街

今は商店へ直接行って商品を買いたい求める人よりも、インターネットで商品を購入する人の数が上回る時代になったし、核家族が進んで客が少量多品目を求めていることへの対応など出来るはずがないと、商店街関係者は諦めきつているのです。

ガソリンスタンドのセルフ化、コンビニの普及、大型スーパーの出店、激安酒店やドラッグストアの出現、チェーン店の安売りの普及など、商店街の周りはこの20年間で大きく様変わりして、地域の色などまったく感じられないお店が、これでもかといわんばかりにわが物顔で出店し、買い物をするこ

とすらできないほどに寂れた商店街をあざ笑っているようです。
私は人口4万人足らずの伊予市という街の、5千人を切った双海町という地域に住んでいます。下灘・上灘という2つの商店街もご多聞に漏れず残念ながら完全に消えてしまいました。地元で買い物をしたくても出来ないから、仕方なく近隣の長浜や伊予市の商

店街で買い物したいと思うのですが、最近になって近くの松前町に四国で最大級といわれる、とてつもなく大きなエミフルというショッピングモールが出来たことで多大の影響を受け、長浜や伊予市の商店街は勿論、ゆるぎないと思われていた県庁所在地松山市の大道や湊町という商店街さえも右肩下がり、関係者は将来への不安を募らせているようです。

愛媛県の人口は143万人といわれています。県民だけを相手にする商売だと143万人分の空気の入った風船の中の空気を奪い合うことですから、何処か膨らんだ部分が出来ると何処かへ込んだ部分が出るのは当然のことで、むしろ、しまなみ海道や瀬戸大橋を渡ってやって来る観光客への対応も考えないと、逆に広島や岡山、大阪、東京にストローで吸い寄せられ、愛媛県の商業的風船はしぼんでいくしかないのです。そのことを考えると愛媛で一番集客能力のある松山の頑張り、周辺地域とのネットワークも考えなければなりません。



大分県豊後高田市 昭和の町展示館

さてそんな中でも日本全国には色々な恵を絞って、商店街を再生させた地域も幾つかあるようです。遠くは滋賀長浜、埼玉川越、近くは大分県豊後高田の商店街のように昭和のレトロという時代遅れをテーマにして商店街を活性化させていますし、お隣の香川県では高松市中央丸亀商店街が従来の商店街ながら新しい取り組みによって再生し、全国七十七活性化商店街の成功事例として紹介されているのです。

豊後高田市のように古さを、松前町のエミフルのように新しさを、また高松のように従来のものをそれぞれの工夫で作り上げてゆく作業は、いずれも商店街自らの智慧と努力、それに方針に基づいた投資が必要ですが、その道は決して楽ではないようです。

最近ばかりチャルモールという仮想商店街の考えが予想以上に定着して、商店街不要論まで飛び出していますし、逆に動く商店でも利用すべき移動販売車を用いた新しいコミュニティビジネスも現れ

始めました。しかし商店街の賑わいがもたらす地域の活性化効果を思うと、商店街の活性化は単なる選挙対策ではなく、もう一度国や県を挙げて取り組まなければならない地域主権の重要な課題であるような気がするのです。

商店街の振興を陰で支えるのは何といっても商工会や商業組合、それに商工会議所などの団体ですが、スタンプ事業や地域商品券を発行したり観光イベントを細々とやるだけでなく、行政と手を組んで地域資源を生かした個性・こだわりを持つオンリーワンのまちづくりや人づくりを積極的に行いたいと願っています。

猫や犬 さえも通らぬ 商店街
まるで歩行者 天国のよう
店じまい 銘打ちセール しているが
何故か閉めない ここのお店は
商店の 親父エミフル お買い物
ビニール袋を いっぱい提げて
シャッターの 閉まった店の その奥で
ひっそり生きる 悲しきピエロ
(若松達一笑売噺より)